

## 市長記者発表要旨

令和5年度の予算編成は、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する、エネルギーや食糧事情の世界規模での急激な変化や、円安の影響などによる物価の高騰など、非常に厳しい中での作業となりました。

このような状況の中においても、本市の目指すまちの姿を市民の皆さんと共有し、時代の変化に対応した、「住み続けたいまち」づくりを進めるため、その指針となる本市の最上位計画、「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」に位置付ける事業に予算を重点的に配分いたしました。

令和5年度の予算規模ですが、前年度と比較して、一般会計の予算額は、20億1,000万円、7.8%増の277億7,000万円で、過去最大の予算規模となりました。規模が最大となったのは、新保健福祉施設及び新長戸コミュニティセンターの建設工事の着手や、新型コロナウイルスワクチンの接種体制を年間通して維持する経費を計上したことに、エネルギー価格や物価高騰に伴う公共施設の管理費の増加が加わったことが主な要因です。

特別会計の合計額は、7億2,320万円、4.8%増の156億4,100万円で、高齢化を背景として拡大しています。

なお、介護サービス事業特別会計については、地域包括支援センターの外部委託に伴い、令和4年度をもって廃止いたします

下水道事業会計は、3,630万円、1.0%減の37億2,320万円となっています。

令和5年度予算の特徴です。

歳入は、コロナ禍からの経済活動の再開などを念頭に、市税全体で2億1,700万円の増収を見込み、地方消費税交付金をはじめとした、各種交付金も同様に増収を見込んでいます。一方、普通交付税と臨時財政対策債を合わせた実質的な普通交付税は、国の地方財政計画を勘案し、若干の減を見込みました。

歳出は、公債費の減はあるものの、期末手当支給月数の増などを要因として人件費が増加し、扶助費は、障がい者給付費の伸びを中心に依然として増加傾向にあり、義務的経費は増加しました。

また、公共施設の管理にかかる光熱費が大きく上昇し、龍ヶ崎地方塵芥処理組合への負担金も、燃料価格の増を背景に大幅に増加し、合計で約3億3,000万円の増額を見込みました。

これらの状況から、収支ギャップは前年度から1億8,000万円増え、5億9,000万円に膨らみ、財政調整基金の繰入による財源措置といたしました。

次に、令和5年度当初予算に計上した主な事業について、「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」の3つのリーディングプロジェクトである「未来創造プロジェクト」「魅力創造プロジェクト」「幸せ創造プロジェクト」の取り組みに分けてご説明します。

まず、子どもの笑顔が続くまちを創るための「未来創造プロジェクト」です。

子ども・子育て支援の充実を図るため、「出産・子育て応援ギフトの給付」と「子育てスマイルパスポート事業」を新規計上しました。

「出産・子育て応援ギフトの給付」は、妊娠届出時に5万円、出産届出時に5万円相当の経済的支援を行うものであり、子育てスマイルパスポートは、1歳から6歳までの子育て世帯に対し、民間事業者が提供している福利厚生パッケージを活用し、子育て世帯のライフスタイルに合わせた幅広いサービスを提供するとともに、そのサイト内で利用できる

5,000円相当のポイントを交付するものです。国の制度と連携して、妊娠から就学前までの子育て期に切れ目のない経済的支援を図ってまいります。

また、非課税世帯等の妊婦の経済的な負担軽減を図るための、初回産科受診料の助成や、妊娠中または産後に支援を必要とする世帯に家事支援者を派遣する、「産前産後家事サポート事業」の開始、さらには「産後ケア事業」と「マタニティタクシー助成事業」の拡充などにより、国が進める伴走型相談支援と連携を図りながら、安心して出産・子育てができる環境づくりを進めます。

少子化対策・定住促進の一環として、若者世代の結婚を後押しするため、10万円相当の新生活のスタートにかかる費用を補助する「若者結婚新生活補助制度」を創設します。

また、新婚世帯に加え、転入者に対して、「ようこそ龍ヶ崎へ」の気持ちを込め、公共施設の利用券をひとまとめにした、「ウェルカムチケット」をプレゼントし、施設の利用を通して、居住環境の優位性を認知するきっかけづくりに取り組みます。

教育分野では、児童生徒の理解度や進み具合に応じた問題等を提供するAIドリルを導入し、子ども一人一人に寄り添った教育環境を提供するとともに、小学校に教科専科指導員を配置し、教育の質の向上に取り組みます。

また、年間1人当たり1回であった、小中学生への「英語検定料」の助成を、2回に拡充し、英語力や学習意欲の向上を後押しします。

小中一貫校整備は、実施設計費を計上しました。令和5年度、6年度の2か年で、1億1,630万円の継続事業としており、令和5年度は3,480万円を計上しています。

新学校給食センターは、令和5年9月の開業に向け、最終年度となりました。国の補正予算を活用するため、令和4年度補正予算で、1億9,754万円を前倒し、令和5年度では、1億2,923万円を計上しています。

続いて、もっと魅力が感じられるまちを創るための「魅力創造プロジェクト」です。

施設の老朽化や利用者ニーズの変化を踏まえ、森林公園のリニューアルに着手します。パークPFIにより、民間のアイデアやノウハウを取り入れ、公園の魅力を高めることにより、賑わいを創出するとともに、財政負担の軽減を図ります。

令和5年度、6年度の2か年で、6億7,701万円の継続事業としており、令和5年度は、現在賃貸借契約を締結している用地を取得するための不動産鑑定や境界確定業務の委託料を計上しています。

財源確保の観点から、ふるさと龍ヶ崎応援寄附金の増収を目指します。民間のノウハウや知見を取り入れ、本市の魅力や価値を発掘・発信するため、国の推進する制度を活用し、民間企業の社員を受け入れます。

子どもの能力を引き出し、伸ばしていく取組を推進します。

「ダンス」及び「投げる動作」を題材にして、自分と向き合い、自分なりに考え、答えを導き出し、表現するまでの一連のプロセスを意思決定する自己実現の場を提供します。

また、全てのスポーツの基礎である「走る」ことへのきっかけづくりや、チームで楽しみながら絆づくりを行う取組として、リレーマラソン大会を実施します。

続いて、日常を豊かに、快適に過ごせるまちを創るための「幸せ創造プロジェクト」です。

新たなモビリティサービスである、AI オンデマンド交通の導入を検討するため、令和5年10月から令和6年3月にかけて、「AI オンデマンド交通実証実験」を行います。

この結果を踏まえながら、より良い公共交通環境の構築を目指してまいります。

新保健福祉施設は、実施設計の継続分に加えて、建設工事費を計上しました。

工事費は、令和5年度、6年度の2か年で、14億1,280万円の継続事業としており、令和5年度は、実施設計と工事費を合わせて、5億8,999万円を計上しています。

市政改革も進めてまいります。

議会運営のペーパーレス化や、専門研修の充実による職員のスキル・モチベーションアップの取組、電子入札システムの導入などに取り組んでまいります。

本市にゆかりのある偉人のマンガを作成し、市内の小学校などに配布することで、郷土への愛着やシビックプライドの醸成を図る、「郷土偉人マンガ作成事業」を新規計上しています。

あんぱんの発明者で、銀座木村屋總本店の創業者でもある、木村安兵衛さんを予定しています。

本市は、令和6年3月20日に市制施行70周年を迎えます。

そこで、令和6年1月から12月までの1年間、「市制施行70周年記念事業」を実施していくことで、行政・市民・企業等が協力して龍ヶ崎市の一体感を高めるとともに、郷土の誇りと愛着心の醸成を図ってまいります。

令和5年度では、令和6年3月24日に記念式典を開催するとともに、市独自のオリジナル年賀はがきを作成いたします。

また、公共施設・インフラの再編成も、順次、実施してまいります。

旧長戸小学校の跡地を活用した、新長戸コミュニティセンターは、実施設計の継続分に加えて、建設工事費を計上しました。

工事費は、令和5年度、6年度の2か年で、4億1,045万円の継続事業としており、令和5年度では、実施設計と工事費を合わせて、1億7,791万円を計上しています。

なお、新長戸コミュニティセンターと、先に説明しました新保健福祉施設については、脱炭素化も推進して参ります。

ご理解、ご協力のほど、よろしく願いいたします。